書式第１２号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

令和　５年度　　事　業　報　告　書

特定非営利活動法人　訪問看護ステーションコスモス

Ⅰ　事業の成果

１．組織の基盤強化と確立（本部）

１）　学習会等の開催

今年度もコスモス独自のNPO主催の学習会はZoom参加を含め3回開催した。

（詳細に関しては、各部署の報告を参照）

① エンゼルケアセミナー　株式会社おくりびとのお葬式　納棺師　[redacted]様

② 皮膚科の診療について　加藤医院　[redacted]

③ 緩和ケアの最新情報　永寿総合病院　[redacted]

その他はコスモススタッフ独自の学習会を本部で実施した。

２）　地域連携・まちづくりへの取り組み

① 地域ケア連携をすすめる会（山谷地域で生活保護受給者、路上生活者など生活困窮者に対し、各事業者が連携してネットワークの形成を目的とする会）に継続参加。2023年度で第15期となった。コスモスより2名が事務局に参加しており活動を継続している。山谷地域の連携で清川に貸家を持ち緊急支援等に活用している。夏には玉姫公園で慰霊祭が実施された。

（詳細は地域への健康相談ボランティア活動・その他を参照）

② コスモス新聞（年3回の配布）は会員のみならず、地域の利用者、連携をおこなっている組織に積極的に配布。コスモスの日常活動への啓発活動を行っている。

③ 国立西洋美術館の企画展への協力として、画家の[redacted]の研修を受け入れた。3月12日より開催の企画展で、山谷地域で暮らす人々や連携団体、訪問看護の状況が展示された。

３）　定例会議の充実と専門職からの指導

① 職員数が60名をこえ、事業運営にあたっては法人事務業務の強化が大きな課題としてあげられる。理事会4回、本部管理スタッフ会議3回、各部署におけるスタッフ会議を実施した。 職員の面接は例年通り実施。面接内容を現場の改革に活かせるように取り組んだ。

② 税理士、社労士、弁護士と契約し、各種制度の確立､職員の福利厚生の充実に努めた。

４）　新型コロナウィルス（COVID-19）感染等対策への取り組み

施設やデイサービス等で複数名の陽性者を確認、各部署で様々な取り組みを行ってきた。濃厚接触者との規定に従い、陽性又は陽性が疑われた職員は一定期間休みとした。感染防御の物品の確保、感染予防における日々の消毒、個々の手洗い、感染予防についての学習を行った。また利用者へ個別の対応を行った。

① 本部訪問看護では、ひき続き「うつらない、うつさない」を基本として訪問看護の業務に務めた。陽性者の確認された施設への訪問時、及び陽性者への訪問時は十分な感染対策を行い看護の提供をした。

特に8月9月においては、感染が蔓延し、利用者21名　職員10名が陽性となった。しかし重症化・感染拡大はなく収束をした。

寿訪問看護では、利用者6名の陽性判明。職員2名も陽性となったが重症化・感染拡大はなく収束している。

② デイサービスは3つの密が存在している場所として認識し、日々開始前後の消毒を徹底。利用前の検温を行い、発熱者は利用をお断りした。しかし、昨年度同様に利用者の陽性は確認されたが、感染拡大することはなかったため休業せずに済んだ。

③ 東京都よりコロナ陽性者への健康観察の依頼が5月の5類感染症移行まで委託された。

健康観察は1件の依頼でありコスモスで対応した。

（詳細は東京都委託事業『新型コロナ患者在宅療養者への訪問看護』を参照）

5）　その他

① 年に2回春と秋のお彼岸に法要とご遺骨の納骨、年末の供養を継続している。

2023年12月3柱　2024年3月3柱　計6柱納骨した。

② 台東区より災害時における障がい者の避難行動に対する計画書作成の依頼を受託。

84人（障がい者42件、要介護者42件）の聞き取りを行い避難行動の計画作成を行った。

③ コロナ禍で中止していたレクリエーション（花火大会、クリスマス会）を1階で実施した。

④ 2024年1月に発生した令和6年能登半島地震の支援に、DC-CAT3名、東京都看護協会1名、4月に[redacted]と5名が参加した。

2．本部訪問看護ステーション報告

1）職員の動向

看護師28名（常勤14名　非常勤14名：看護師常勤換算数24.4名）事務職員7名（常勤7名　非常勤3名）にて、訪問看護を提供した。

（入職者：看護師4名、退職者：理学療法士1名・看護師2名）

退職者：[redacted] 4/27・[redacted] 1/5・[redacted] 3/31

入職者：[redacted] 4/ 27 ・[redacted] 6/14・ [redacted] 7/12 ・[redacted] 2/7

復職者：[redacted]

職　位：[redacted] 6/1 主任

2）2023年度の訪問看護の動向

・2023年5月8日新型コロナウイルス感染症は5類へ移行したが、本年度も感染予防対策の強化、陽性者の対応を継続した。コロナ感染者は一定数おり、8 月はおはなの入居者が全員罹患した。2021 年 10 月より、東京都新型コロナウイルス感染症自宅療養者への訪問看護委託事業の台東区の窓口となり、台東区内の訪問看護ステーションおよび台東保健所と連携を図りながら、台東区内住民の陽性者訪問の実施・調整していたが、この事業に関しては、2023年5月8日にて終了している。

・2022年10月より電子カルテ（すぐろく）を導入したが、有効活用までにはいくつもの課題があ

り、2023年度も電子カルテチームが中心となり、業務・情報共有の効率化および看護の質の確保のためにアンケートを実施し、マニュアル化を進めた。一方で、電子カルテを持ち帰り記録入力ができるようになり、在宅勤務も可能となった。

・利用者数が330名　月訪問件数が約2000件となり、従来のホワイトボードでのシフト調整では、漏れや負担の偏り等の課題が重なり限界となった。そのため、2023年3月より勤務表ソフト(ZEST)の導入に踏み切った。ただし、ホワイドボードを皆で囲みながら、利用者の状況を話合い、柔軟にシフト変更をするというこれまで築いてきたコスモスのありようが難しくなるというデメリットが生じており、2024年度は電子黒板の導入を検討している。

・数年振りに、利用者満足度の調査を実施し集計した。全体的な利用者の動向においては、台東区内に新たな訪問看護ステーション開設が続出し、現在のステーション連絡会の入会事業所だけでも35件となり、乱立している状況ではあり、この状況は年々加速していくことが予測される。このような状況において、年間看取り数、新規依頼は減少傾向にあるものの、訪問実績に関しては、昨年と比較しほぼ同様に推移していることから、日々の看護のありようがこの地域で評価を得ているものと考えられる。また、特別管理加算が20%を平均して上回るようになり、令和5年6月より介護保険算定加算の看護体制強化加算Ⅱ（200単位)、令和5年10月より看護体制強化加算Ⅰ（550 単位）の算定の届出をおこなったことから、一定の収益確保に繋がっている。しかしながら、このような忙しさの中で職員個々の負担感は高まっていると考えられ、毎月、管理会議を行い、個別面接や職務改善アンケートを実施し環境改善の検討をおこなった。

・生きがい作り、楽しみ作りの活動としては、レクリエーション係が中心となり、7月には隅田川花火大会、12月にはクリスマス会を開催し、利用者とともに楽しい時間を過ごした。また10月より画家の[redacted]を受け入れ、山谷・コスモスのありようが絵画となり現在、西洋美術館「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？―国立西洋美術館 65 年目の自問｜現代美術家たちへの問いかけ」にてコスモスや利用者について展示されている。

・特例子会社DTSパレットに依頼し、新聞係が中心となりホームページをリニューアルした。

・特定行為研修に1名受講(資格取得支援規程作成)し、在宅看護専門看護師資格を1名取得した。

＜年齢・性別×保険別＞

2023年度は、全利用者481名（前年10名増）とほぼ変化なく、その内訳は介護保険利用者308名（64.0%）・医療保険173名（36.0%）であり、前年と比較し介護保険の利用者が微増した（4%程度)。なお、全国訪問看護事業所の保険比率が（介護費70.6%　医療費29.6%）であるため、コスモスは医療保険での利用者が多い傾向にある。性別の内訳は男性310名（64.4%）・女性171名（35.6%）であり、男性の割合が高い傾向は昨年同様であり大きな変化はみられなかった（表：性別・保険別の内訳)。また、新規利用者は145名（医療57名　介護88名　月平均12.1名）と前年より16名/年減（介護保険2名減　医療保険が18名）減であった。また、終了者は121名であり昨年より10名少なかった。新規利用者と終了者の増減では、結果的に24名の増加が見られた（表1：新規契約者　終了者)。

＜終了利用者の内訳＞

終了者は全体で121名（前年10名減）であり軽快や施設入所は46名（昨年より10名減)、死亡終了は75名で増減はなかった。死亡終了のうち、病院での看取りは30名と前年より2名増、一方で、自宅および連携施設での看取りは45名と前年より2名減であり3年連続して減少傾向にある。近隣に緩和ケアメインの訪問看護ステーションが開設され、ターミナル期の依頼が分散してきて

いること、また永寿総合病院の緩和ケア病棟との連携も進んでおり、最期の時を緩和ケア病棟で迎える利用者が一定数いることが窺われる（表１）。

＜自立度の内訳＞（表２・３）

認知症の割合をみると、Ⅱa-M が 266 名おり全体の 55.3%を占めている（昨年より 2.3%増）。程度の問題はあるものの、何等かの認知症状を抱えている利用者が多い傾向にある。また日常生活動作に関しても、自立・その他以外は 422 名弱に及ぶことから、災害時の支援体制の側面においても検討を重ねる必要がある。

要介護度でみてみると、要介護１から要介護３で 60.3%を占めており、昨年同様の傾向である。

＜年齢構造＞

利用者の年齢構造は平均年齢 75.25 歳（介護保険 82.2 歳　医療保険 68.3 歳）と昨年同様であり、なお、最高年齢は 113 歳　最小年齢は 20 歳であった（表５）。年齢構造でみると、80 歳代 90 歳代が合わせて 65.5%と半数以上を占めていた。

表１

利用者の状況		2022年度	2023年度
総利用者数		471	481
保険	介護保険	284	308
	医療保険	187	173
性別	男性	281	310
	女性	190	171
新規件数		161	145
保険	介護保険	86	88
	医療保険	75	57
終了件数		131	121
保険	介護保険	64	66
	医療保険	67	55

終了内訳		2022年度	2023年度
軽快/入所 等		56	46
死亡	自宅	33	28
	にじ・ゆい	0	1
	おはな	4	5
	きぼうのいえ	10	11
	その他	0	0
	自宅看取り総数	47	45
	医療機関	28	30

表２

介護度割合	2022年度(%)	2023年度(%)
要支援１	11	14(4.5)
要支援２	17	20(6.5)
要介護１	60	58(18.8)
要介護２	61	78(25.3)
要介護３	50	50(16.2)
要介護４	51	48(15.6)
要介護５	34	39(12.7)
認定待ち	0	1(0.3)

表３

寝たきり度（計）	2022年度	2023年度
A1	63	70
A2	72	72
B1	60	59
B2	55	52
C1	27	26
C2	28	28
J1	42	39
J2	57	76
自立	3	5
不明	64	54
認知症度（計）	2022年度	2023年度
Ⅰ	117	127
Ⅱa	69	74
Ⅱb	67	75
Ⅲa	55	57
Ⅲb	21	24
Ⅳ	32	31
M	7	5
自立	72	64
不明	31	24

表６

利用者数内訳		2022年度	2023年度
24時間緊急時訪問看護加算		448	456
保険	介護保険	263	286
	医療保険	185	170
特別管理加算		140	202
保険	介護保険	67	80
	医療保険	73	122
生活保護		220	230
保険	介護保険	140	139
	医療保険	80	91
自立支援医療		52	43
ターミナル加算			50
保険	介護保険		12
	医療保険	36	38

表８

特別管理加算内訳	2022年度	2023年度
Baｶﾃｰﾃﾙ	41	44
他ｶﾃｰﾃﾙ	5	13
胃瘻	13	12
腸瘻	2	1
気切	4	7
経鼻	1	5
CVﾎﾟｰﾄ	2	17
PTCD	1	3
人工呼吸器	4	5
HOT	40	61
ｽﾄﾏ	4	23
褥瘡	3	9
点滴	6	10

表７

主傷病割合	2022年度	2023年度
悪性腫瘍	103	82
認知症	36	46
筋肉骨格系	50	49
心疾患	27	34
脳血管疾患	56	53
高血圧	17	18
精神疾患	63	48
糖尿病	18	20
呼吸器疾患	21	26
神経難病	13	15
腎疾患	8	16
肝疾患	5	7
ＨＩＶ	4	3
その他	50	64

表９

	利用者数		訪問件数	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
2023年4月	311	316	1806	1873
5月	310	333	1812	2073
6月	317	329	1891	2111
7月	320	333	1641	1980
8月	319	323	1804	2136
9月	323	313	1841	1904
10月	322	316	1750	1983
11月	325	325	1814	1983
12月	321	322	1831	1892
2024年1月	324	320	1725	1919
2月	326	332	1623	1897
3月	327	327	1832	1990
平　均	320.4	324.1	1780.8	1978.4

＜2023 年度契約利用者の各種加算・公費・要介護認定の内訳＞

表６が示すように、24 時間緊急加算（対応体制加算）、登録者数は 456 名（介護保険 286 名　医療保険 170 名）で全体の 94.1%であり殆どの契約利用者が 24 時間の緊急対応加算を契約していることがわかる。特別管理加算はⅠとⅡを合わせると、202 名（42.0%）であり、かつ介護保険と対象者だけてみると、80 人（25.97%）であり、介護保険における看護体制強化加算の算定要件を平均して満たしており令和５年６月より算定の届け出を行っている。

なお、特別管理加算Ⅰでは、尿管留置カテーテルが最も多く、加算Ⅱでは在宅酸素療法が多かった（表８）。昨年度において加算算定者が 58 名増えた背景には、24 時間体制を行っている事業所であることから医療依存度の高い利用者の依頼が増えていることや、看護体制強化加算を算定するにあたり、算定漏れを皆で協力しながら対応したことが考えられる。一方、生活保護受給者は、230 名（47.8%）昨年と微増しており、自立支援医療対象者は 43 名（8.9%）であり、入院や入所などで 9 名減っている傾向にある。また、ターミナルケアにまつわる加算算定者は 50 名であった（表６）。

主傷病の割合については、悪性腫瘍が 82 件と最も多く、続いて脳血管疾患、筋肉骨格系、精神疾患、認知症であり、多様な疾患の利用者へ対応していることがわかる（表７）。

＜月の訪問件数・利用者数＞

月平均の件数は 1978 件（前年より 197 件増）であり、利用者数が 324.1 名（前年より 4 名増）であり、昨年と比較し、利用者数は同程度であるが、訪問回数は増えている傾向にある。（表 9:月の訪問件数・利用者数）。この点においては、コロナの影響を受け、一時営業を縮小していた昨年と比較し、今年度は、コロナの影響を受けずに安定して営業できていたことも考えられる（表９）。

＜緊急対応の内訳＞

営業時間外の緊急相談の集計については 2022 年度より Google フォームの入力に切りかえ、今年度も同様に集計し、情報の連携・共有については MCS を活用した。

その結果、営業時間外の相談件数では、1127 件と昨年度より約 400 件減少したものの詳細を見ていくと、月平均 93.9 回（昨年より 27.5 回減）であり、営業時間外での訪問自体は月平均 23.3 回と昨年より 1.5 回/月と微増していた。昨年度より減少していた点においては、その理由として今年度の相談内容では、「不安」は約 400 件減少してことからも、昨年度は同一の利用者からの頻回な不安の訴えに対応していたことが影響していると考えられる。しかしながら、集計結果からは、呼吸困難感や体調不良全般に関する訴えに対応していること、さらには、深夜早朝にも関わらず呼吸停止や医療機器トラブルへの対応など高度な知識や技術を要する状況にも対応していることが示され、緊急対応への負担感は同様に続いている。この負担への対策として、令和６年６月より施行される同時制度改正を取り入れ、緊急当番の持つ日数を２日交代とし、翌日半日程度の休みが確保できるように体制を整えていく予定である。

電話対応

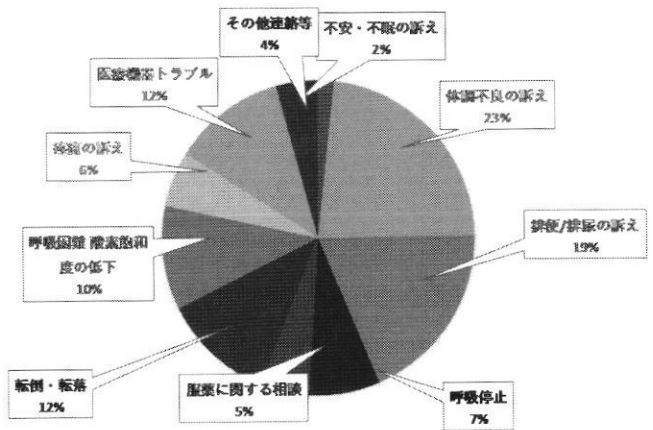
時間帯/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0-4時	4 件	7 件	5 件	1 件	8 件	4 件	6 件	2 件	1 件	8 件	10 件	4 件	60 件
4-8時	14 件	9 件	7 件	10 件	22 件	9 件	4 件	10 件	2 件	15 件	6 件	10 件	118 件
8-12時	18 件	30 件	9 件	4 件	16 件	6 件	8 件	18 件	6 件	12 件	13 件	12 件	152 件
12-16時	12 件	12 件	8 件	8 件	9 件	2 件	1 件	15 件	7 件	20 件	6 件	12 件	112 件
16-20時	20 件	20 件	12 件	23 件	9 件	15 件	8 件	20 件	35 件	10 件	20 件	20 件	212 件
20-24時	18 件	32 件	17 件	26 件	18 件	13 件	16 件	12 件	6 件	10 件	14 件	12 件	194 件
合計	86 件	110 件	58 件	72 件	82 件	49 件	43 件	77 件	57 件	75 件	69 件	70 件	848 件

訪問対応

時間帯/月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0-4時	3 件	4 件	0 件	2 件	0 件	0 件	2 件	1 件	2 件	0 件	1 件	2 件	17 件
4-8時	2 件	5 件	2 件	3 件	5 件	3 件	2 件	1 件	1 件	0 件	1 件	5 件	30 件
8-12時	4 件	3 件	4 件	7 件	3 件	4 件	5 件	5 件	4 件	1 件	5 件	10 件	55 件
12-16時	3 件	3 件	1 件	3 件	2 件	3 件	2 件	1 件	5 件	4 件	4 件	9 件	40 件
16-20時	8 件	15 件	11 件	9 件	2 件	2 件	4 件	4 件	11 件	4 件	9 件	9 件	88 件
20-24時	10 件	5 件	5 件	3 件	3 件	3 件	0 件	3 件	2 件	3 件	7 件	5 件	49 件
合計	30 件	35 件	23 件	27 件	15 件	15 件	15 件	15 件	25 件	12 件	27 件	40 件	279 件

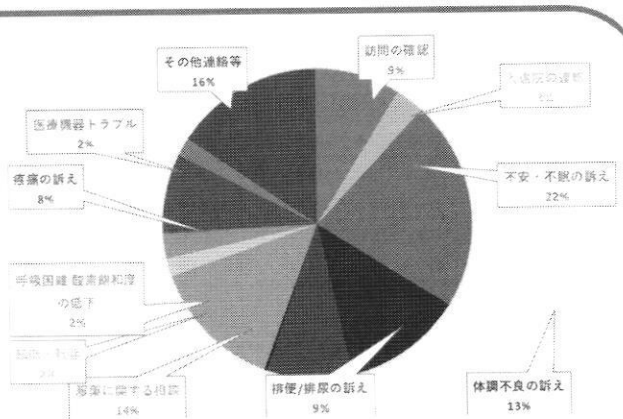
訪問対応の概要

訪問対応の内容	
不安・不眠の訴え	5
体調不良の訴え	65
排便/排尿の訴え	53
呼吸停止	21
服薬に関する相談	14
転倒・転落	33
呼吸困難 酸素飽和度の低下	30
疼痛の訴え	16
医療機器トラブル	33
その他連絡等	12



電話対応の概要

電話対応の内訳	
訪問の確認	76
入退院の連絡	26
不安・不眠の訴え	184
体調不良の訴え	107
排便/排尿の訴え	75
呼吸停止	3
服薬に関する相談	118
転倒・転落	16
呼吸困難 酸素飽和度の低下	22
疼痛の訴え	70
医療機器トラブル	16
その他連絡等	132



＜同居家族の有無・居住形態＞　契約利用者 481 名

同居家族の有無では、同居家族有りが 276 名（57.4%　11 名増）で、独居が 205 名（42.6%）うち簡易宿所 67 名（15 名増）であり毎年微増傾向にある。最近では少数ではあるものの、簡易宿所の管理人（番頭さん）への訪問看護の提供もしている。また施設・宿泊施設の内訳では、コスモス関連施設 36 名・きぼうのいえ 33 名・ふるさと 14 名・山友荘 3 名であった。このことから、単身者や簡易宿所、その他関連施設への訪問が約半数以上を占めていることがわかる（表 10）。

＊簡易宿泊所・コスモス（にじ・ゆい）・ご縁は独居にカウント、おはな・山友荘・ふるさと・その他（クローバー）は 24 時間体制の施設であるため、同居家族ありにカウントしている。

＜訪問地域＞

昨年同様で、コスモスから最も近隣である日本堤と清川が 248 件（26 件増）と最も多く、さらに近隣に集中している傾向にあった（表 11）。この背景には日本堤や清川の高齢化の影響や一方で、他訪問エリアについては訪問看護ステーションが乱立し、依頼が減っていることも影響していると考えられる。

表10

居住形態		2022年度	2023年度
世帯	同居家族有	265	276
	独居	206	205
居住場所	簡易宿所	52	67
	おはな	17	18
	にじ/ゆい	13	18
	山友荘	3	3
	きぼうのいえ	30	33
	ふるさと	17	14
	その他	5	8

表11

訪問エリア		2022年度	2023年度
台東区	日本堤	113	129
	清川	109	119
	千束	53	48
	浅草	49	41
	橋場	33	42
	竜泉	22	20
	今戸	13	20
	根岸	17	13
	三ノ輪	17	13
	東浅草	22	15
	西浅草	1	1
	下谷	7	5
	入谷	4	5
	松が谷	2	1
荒川区	南千住	9	9

＜訪問看護指示書＞

訪問看護指示書は、85機関(前年度と増減なし)170名の医師(15名増)へ依頼した(2024年3月時点)。

なお、2023年度の精神科訪問看護指示書依頼は37件（1件減）であり、特別訪問看護指示書はのべ67件（1件減）発行され、2022年と比較するとほぼ変化していないことが窺われる。しかしながら2022年度はコロナ感染症による特別訪問看護師指示書が多く発行されていたことを踏まえれば、2023年度は医療依存度の高い利用者や状態変化に伴う特別訪問看護指示書が多かった可能性も考えられる。さらに、退院の際に介護保険の認定が出ていないために退院とともに特別訪問看護指示書が発行されるケースが増えたことも要因の一つであると推察される。

3）貢献・連携について

・訪問介護者への医療行為等の実施指導（吸引・胃瘻手技）は2名の利用者に対して5件実施した。

・たいとう地域包括ケア推進協議会について昨年度同様、台東区訪問看護ステーション連絡会の担当役員（副代表）としてICT推進協議会（MCS）へ参加し、多職種連携、地域包括ケアの推進に努めた。

・地域ケア連携をすすめる会においても定期的な会議に参加し山谷地域に関わる課題への共有と連携と取り組みを行った。

・能登半島地震では、DC-CAT （Disaster Community-Care Assistance Team）にて3名（[redacted]）、東京都看護協会にて1名（[redacted]）グリーフケア関連施設2名（[redacted]） が現地支援へ行った。

・区内ステーション連絡会と医療機関の連携を目的に浅草寺病院・台東病院・永寿総合病院の同行研修を受け入れた。

4）学会および外部発表

●第31回慢性期医療学会　ポスターセッション

『皮膚保護剤を有する医療用カテーテル固定の開発』（アルケア株式会社共同発表 [redacted]）

●日本心理学会第87回大会

「あと一歩だけ，未来に―訪問看護におけるケアリングの相互性と継承性―」[redacted]

●訪問看護サミット（日本訪問看護財団）2023 自由で豊かな共生社会の構築
「地域ぐるみで支え合い、健やかに生き安らかに逝く」この街に寄り添って―支え・支えられていること―[redacted]

●日本在宅看護学術集会
「地域生活が困難な利用者への金銭管理支援による生活・健康の変化-訪問看護師の視点から-」[redacted]
「訪問看護師のリフレクションを促す個人内および職場内要因の検討 ―未来に向けた継承的捉え直しに着目して― 」[redacted]

●認定 NPO 法人　プラチナギルドの会　定例会講演会
「山谷と周辺の歴史　コスモス開設と取り組み」[redacted]
「山谷地域での訪問看護」[redacted]

●日韓ホームケア看護師会
「日本における訪問看護の現状と課題」[redacted]

5）新型コロナウイルス対策

今年度は、新型コロナウイルス感染症も 5 類へ以降したが、感染予防対策の強化、陽性者の対応へ継続して取り組んだ。なお、1 年間でコスモスの利用者は 45 名の陽性者がいた。入院加療が困難な利用者もおり、特別訪問看護指示書のもと（7 件）PPE の徹底・体制を整えながら訪問看護を継続した。また職員に関しては、東京都の定期的抗原定性検査を実施した。

＊東京都訪問看護ステーション協会の「新型コロナウイルス感染症の自宅療養者等への訪問看護事業」の一環としてコスモスが台東区訪問看護ステーション連絡会の事務局（台東区内では 8 ステーションが参加）となっていたが、5 類への以降とともに終了となった。

6）質の向上・外部評価への取り組み

本年度も情報公開の調査（書類提出のみ）が実施された。また 9 月に利用者満足度調査を実施した。

今年度も、学習会係が中心となり年間予定を立て、月 2～3 回程度木曜日のお昼の時間帯を活用して実施している。またリモート研修が増えたことから、お昼の時間帯や夕方の時間帯に希望者で参加することも増えている。

2021 年度介護保険の報酬改定により、感染予防対策委員の設置や認知症への取り組み強化、事業継続計画（BCP）などの実施が努力義務であったが、2024 年には義務化となっており、定期的な会議の開催、指針の作成、学習会を実施していく。

＜NPO 学習会＞

今年度も 1 階のデイサービスの場を利用して一部ハイブリッドにして年 3 回実施した。

・8/18(金) エンゼルケアセミナー　ディパーチャーズ・ジャパン㈱おくりびとのお葬式[redacted]
・2/2(金)かとう医院皮膚科[redacted]の皮膚科学[redacted]
・2/29(木) 緩和ケアの集い－より良いチームケアとは何かを考える－[redacted]（チームウェルと共催）
・＊昨年度開催した浜田クリニック[redacted]の講義内容や歴史についてまとめ冊子を作成した（[redacted]）。

7）在宅看護実習

表に示すように多数の大学、看護要請機関から実習の依頼があり担当者を決め受け入れを実施した。また、2023 年度は在宅ケア専門看護師と訪問看護・在宅ケア認定看護師の実習を受け入れた。

2023年度 実習実績表　　2024/3/31

学校名・団体名	実習名	学年	期間（自）	期間（至）	日数	人数
【訪問看護】						
板橋中央看護専門学校（1G）	在宅看護論実習	3	2023/6/19	2023/6/22	4.0	2
板橋中央看護専門学校（2G）	在宅看護論実習	3	2023/9/25	2023/9/28	4.0	2
板橋中央看護専門学校（3G）	在宅看護論実習	3	2023/10/10	2023/10/12	3.0	2
国際医療福祉大学成田看護学部	終末期ケア実践実習	4	2023/6/5	2023/6/15	8.0	2
国際医療福祉大学大学院	高度実践在宅看護実習Ⅰ	1	2023/8/17	2023/9/29	14.0	2
順天堂大学(1G)	在宅看護論実習	4	2023/5/8	2023/5/18	7.0	2
順天堂大学(2G)	在宅看護論実習	4	2023/5/22	2022/6/1	7.0	2
東京女子医科大学	地域看護学実習Ⅰ	4	2023/6/22	2023/6/29	6.0	2
千葉大学	統合実習	4	2023/7/13	2023/7/20	5.0	3
聖路加国際大学看護学大学院	公衆衛生看護学	1	2023/7/31	2023/8/10	2.0	14
聖路加国際大学①	地域在宅看護学実習	3	2023/11/14	2023/11/21	5.0	2
聖路加国際大学②	地域在宅看護学実習	3	2023/11/28	2023/12/5	5.0	2
聖路加国際大学③	地域在宅看護学実習	3	2024/1/10	2024/1/17	5.0	2
東京医科大学	在宅看護実習Ⅰ	3	2023/7/31	2023/8/10	9.0	2
聖路加国際大学	認定看護師教育課程		2023/11/21	2023/12/22	18.0	1
帝京大学	地域・在宅看護学実習	3	2024/2/6	2024/2/15	6.0	2
東京医科歯科大学(1G)	在宅看護学実習	3	2023/10/2	2023/10/6	4.0	4
東京医科歯科大学(2G)	在宅看護学実習	3	2023/10/16	2023/10/20	4.0	3
東京医科歯科大学(3G)	在宅看護学実習	3	2023/10/30	2023/11/2	4.0	2
東京医科歯科大学(4G)	在宅看護学実習	3	2023/11/13	2023/11/17	4.0	2
東京医科歯科大学(5G)	在宅看護学実習	3	2023/11/27	2023/12/1	4.0	2
東京医科歯科大学(6G)	在宅看護学実習	3	2023/12/11	2023/12/15	4.0	2
東京医科大学　医学部看護学科	包括ケア実習	3	2024/1/16	2024/1/19	4.0	2
東京医科大学　医学部看護学科	包括ケア実習	3	2024/1/22	2024/1/25	4.0	2
東京慈恵会医科大学　医学部1	在宅訪問実習	3	2023/9/4	2023/9/8	5.0	1
東京慈恵会医科大学　医学部2	在宅訪問実習	3	2023/9/11	2023/9/15	5.0	1
東京都立大学　健康福祉学部看護学科	臨地看護学実践実習（在宅）	3	2024/1/23	2024/1/26	3.0	2
東京都立大学　健康福祉学部看護学科	臨地看護学実践実習（在宅）	3	2024/1/29	2024/2/1	3.0	2
東北大学　臨床宗教実践講座	スピリチュアルケア	2	2023/5/17	2023/12/5	30.0	1
上智大学グリーフケア研究所	スピリチュアルケア		2023/8/14	2023/8/18	5.0	7
上智大学大学院 実践宗教学研究科	スピリチュアルケア		2024/2/6	2024/2/8	2.0	6
ナースプラザ			2023/11/8	2023/11/8	1.0	1
台東病院	医療連携同行訪問		2023/11/6	2023/11/13	0.5	4
浅草寺病院	医療連携同行訪問		2023/11/9	2023/11/9	0.5	2
永寿総合病院	医療連携同行訪問		2023/11/9	2023/11/9	0.5	1
合計					196	91

8）リスクマネジメントの取り組み

2023 年度のインシデントレポートの件数は 103 件であり、2022 年度とほぼ同様の数が報告されてい

た。最も多いのは昨年同様に服薬に関すること 21 件（5 件減）、訪問スケジュールの誤調整が 18 件（5 件増）であった。週に 1 度の読み合わせが定着し、事故発生から読み合わせまでの期間が短縮されたことで、よりその時の状況を鮮明に振り返ることができ、また早期に解決策を検討することができている。また訪問看護スケジュールの誤調整が増加していることに対しては、訪問看護シフト管理システム（ZEST）を導入している。

2023 年度インシデントレポートの数・種類

	内容 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療事故	服薬	1	1	1	1	0	0	2	1	1	2	2	9	21
	ストマケア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	医療処置	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	医療機器の取り扱い誤り	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	2	7
	麻薬に関すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬液の種類・投与方法の誤り	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4
ケア事故	皮膚損傷	1	1	1	0	1	0	1	0	0	2	2	0	9
	爪切り	1	0	0	1	0	2	1	1	0	1	0	1	8
	転落・転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	エンゼルケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	環境整備	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	家屋環境	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4
作業ミス 事務的	訪問スケジュールの誤調整	2	2	0	0	2	3	0	2	1	2	2	2	18
	FAXの誤送信	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	伝達忘れ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
	忘れ物/紛失	0	1	2	0	2	1	1	0	0	1	0	2	10
	交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	3	1	1	3	0	0	0	0	1	2	11
	合計	6	6	12	6	10	9	6	4	2	11	11	20	103

3．訪問看護ステーションコスモス寿報告

1）職員状況

・常勤 1 名　・非常勤 6 名　・事務員 1 名

2）利用者状況（統計表あり）

2023 年度の訪問実績は、4,451 件で、このところ横ばいだった訪問件数が、8 年ぶりに昨年度比 12%増となっている。これは、職員が 1 名増えたことと、日曜日の服薬確認・インスリン注射の訪問が多かったことが要因と考える。

1ヶ月の平均利用者数は、53 名（医療 7：介護 3）。男性が多く、女性は 7 名と少ないが前年度より 7%増えている。94%が生活保護受給者で単身者が多い。

全体の 75%以上が精神疾患の方で、自立支援医療での利用が多い状況は今年も変わらない。

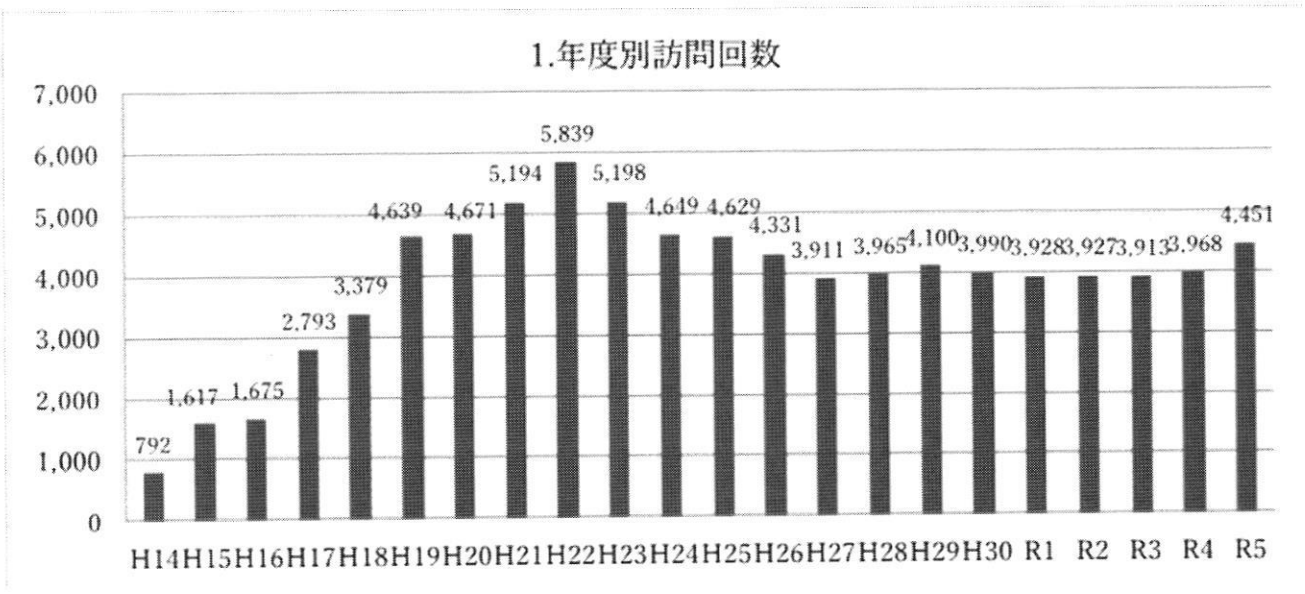
疾患別では、介護保険が、1 位悪性腫瘍、2 位糖尿病で、介護度の平均は要介護 3.2。医療保険は、1 位統合失調症（30 名）2 位アルコール依存症(5 名)である。

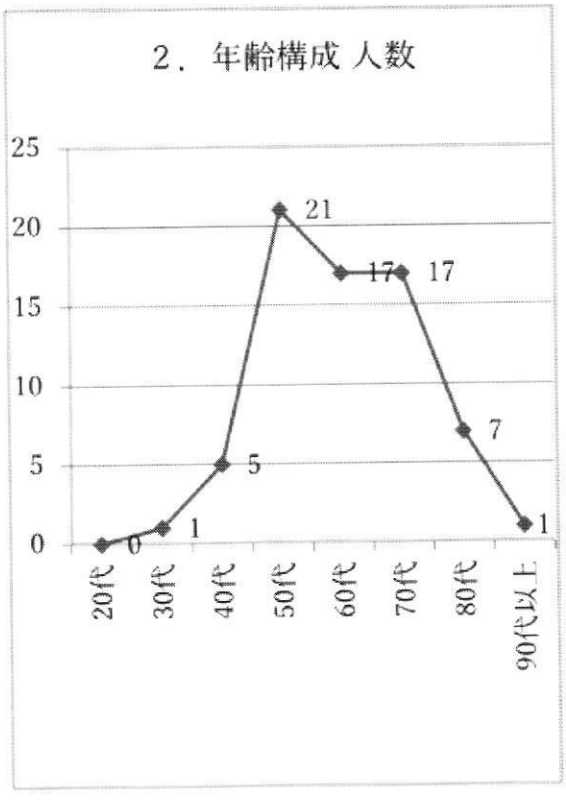
ケア項目としては、ストーマ管理、インスリン注射、服薬管理、食事指導、生活指導、就労支援（精神障害者の作業所に 6 名通所中）等である。

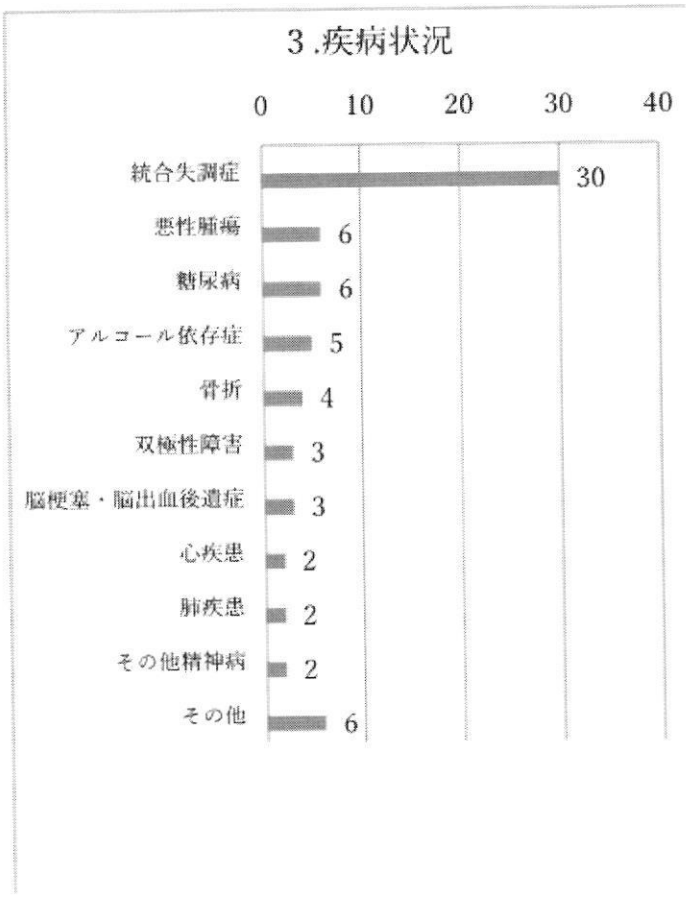
年齢構成は、50 歳代が 30.4%で最も多く、次が 60 歳代と 70 歳代で 24.6%、寿地区の状況と酷似している。一番若い方が 32 歳、最高齢が 86 歳であった。

訪問エリアは、寿地区の簡易宿泊所が中心で、地区外の居住者は現在 4 名のみである。

寿地区の状況は、2023 年度の寿福祉プラザの統計年報によると、簡易宿泊所は 113（2 軒減）軒。人口全体は 63 人減で 5,340 人（うち女性 291 人）。65 歳以上は 166 人減少し 2,822 人。高齢化率は 52.8%で、昨年度より 2.5%下がる（全国 29.1%・横浜市は 25.0%）。要介護認定者数は 1,043 人で、うち 949 人が 65 歳以上で、高齢者の 33.6%が介護認定を受けている。







3）その他

2023 年度は、「介護サービス情報公表制度の訪問調査」が 10 月に、その 4 カ月後に「運営指導」が行われた。カルテの内容、マニュアルや書類の詳細まで整備することができた。

10 月に非常勤 1 名採用している。新体制にはスタッフ確保が最重要課題として継続している。

4）2023 年の目標と結果

① 積極的に研修や学習会に参加し、看護の質の向上に努める。

本年度もリモートでの研修が多く、認知症対応力向上研修、高齢者の食支援・栄養ケア、排便ケア等があった。所内では高齢者虐待防止、ハラスメント防止、感染症対策の委員会を作り研修を行った。

② 策定された BCP が適正に運用されるよう、訓練と見直しを重ねていく。

策定された BCP に基づいて、感染症と自然災害における委員会を作り研修と訓練を行った。今後も定期的に行う予定。

③ 地域の防災訓練等に参加し、他機関（特に訪問看護ステーション）との連携を図り、地域力を高めていく。

地域の防災訓練がコロナ禍後は行われていないため、継続課題となる。

4．居宅介護支援事業

1）職員状況

ケアマネージャー4 名（内主任ケアマネージャー1 名）変更無し

2）ケアプラン数　（単位：件）

	2023 年度実績	前年度比較
利用者数	97	+4
ケアプラン総数	835	-45
内訳（要介護）	726	-39
（要支援）	109	-6
新規プラン（要介護）	26	+13
（要支援）	4	+4
終了プラン	22	+5

＊月平均のケアプラン数は約 70 件（前年比-3 件）と減少している。減少理由は、利用者は増えたが、入院や入所でサービスが発生しない月があったためと考える。

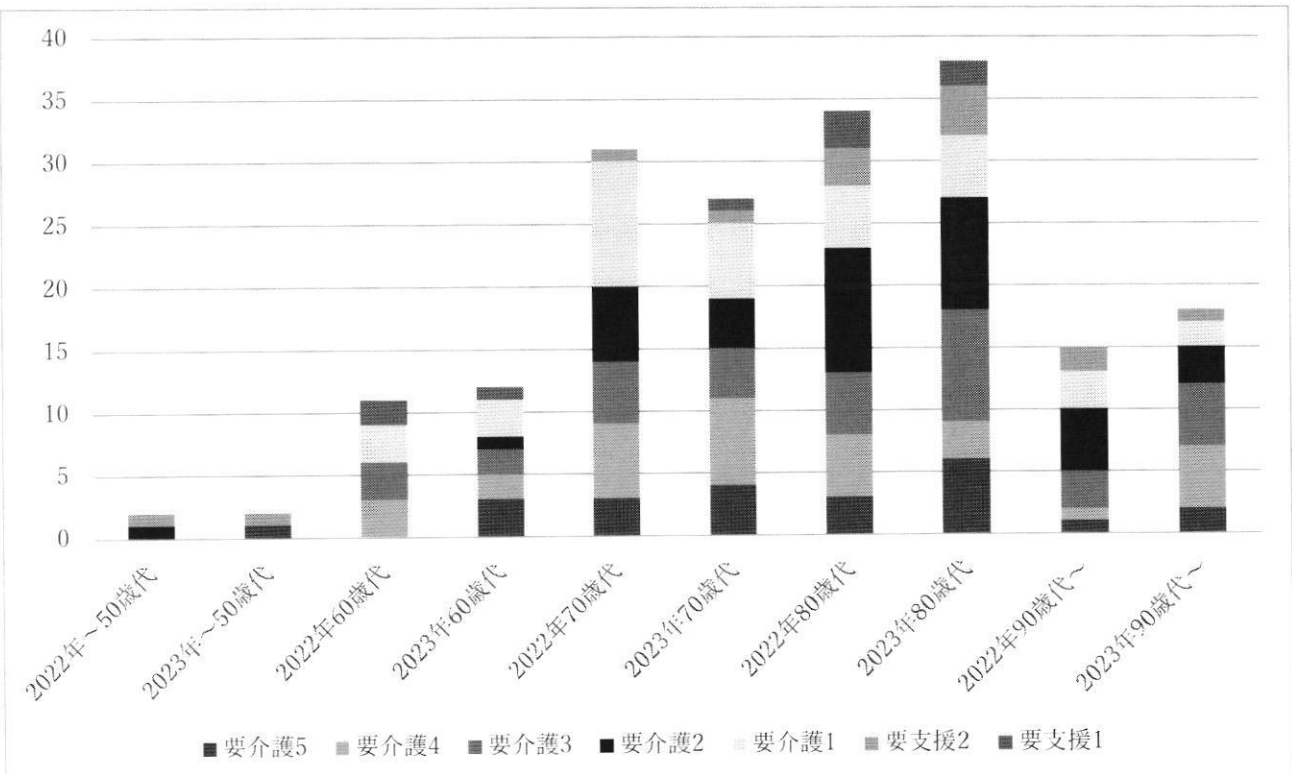
＊サービスの依頼は年間で 35 件あったが、サービスの調整中の入院、もしくは退院できず終了となったケースが 9 件あった。

＊地域包括支援センター、近隣の NPO 法人、病院 MSW より訪問看護と併せての依頼が多かった。

＊その他透析を含む腎疾患やアルコール依存症、精神疾患など多様な疾患を持った利用者を担当した。

3）利用者の内訳

・介護度の分布　　（単位：人）



・男女別　　（単位：人）

	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	合計
男性	2	10	22	25	9	68
女性	0	2	5	13	9	29
合計	2	12	27	38	18	97

・疾患別（主治医意見書より、利用者重複）　　（単位：人）

ガン末期	整形	認知症	脳卒中	心疾患	呼吸器	難病
14	13	12	7	7	7	7

・生活保護受給者　　（単位：人）

	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代	合計
男性	1	7	18	17	3	46
女性	0	0	2	3	2	7
合計	1	7	20	20	5	53

・保険者情報　　（単位は人）

保険者	台東区	荒川区	墨田区	新宿区	小平市	文京区	豊島区	北区	江東区
件数	87	2	1	1	1	2	1	1	1

上記より、台東区の保険者が最も多くなっている。
80 歳代の利用者が多くなっており、要介護者も多くなっている。
昨年と比較しても 80 歳代以上の利用者の増加がみられている。
生活保護受給者 53 名であり、全体の 56%となっている。
地域包括支援事業所とも連携し、サポートの必要なケースや困難事例も対応している。

4）ケアマネの活動

① 介護支援専門員（1名）更新研修を終了した。

② 要介護認定調査の依頼を 3 件、台東区避難行動要支援者個別支援計画の調査（障害福祉課、介護保険課）を 84 件受けた。

③ ケアプラン作成以外に、城北労働センターの健康相談の受付業務や利用者が、安心して生活できるように、アパート管理、受診同行などの支援を行った。

④ 台東区主催の質の向上研修や地域包括支援センターで行われるケアマネージャーの集いに積極的に参加して、知識向上に努め地域の連携も強めることが出来た。

⑤ 定期会議は、スケジュールの調整を行い、可能な限りで年 4 回実施した。

5．通所介護事業

1）職員状況

・常勤 2 名　　・非常勤 16 名　　・合計 18 名

2）利用者動向

＊新規登録利用者…20 名

＊契約終了者…18 名

終了者内訳

死　去	6名
施設入所	5名
長期入院	3名
ADL 低下等	2名
その他	2名

＊利用者層

平均年齢は下がったが、中重度割合（介護度 3 以上）は上昇を継続中。職員の負担は増加している。

	2023 年度
平均年齢	80.9 歳
90 歳以上	8 名
中重度割合	65.0%
1 日平均人数	15.10 人/日
稼働率	79.4%

＊人数・稼働率

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に来所者が減少したが、休業することなく営業することができた。

9 月以降は施設入所理由での利用終了者が多く、定員割れの状況となった。

稼働率は 79.4%と昨年度と同様にとどまっている。

3）レクリエーション

＊季節行事として、コロナ感染症対策は緩和傾向で、動きのとれるレクを実施。

＊通常レクとして、ＤＡＭコンテンツ・YouTube を主軸に、音楽療法・工作活動を継続。

4）その他

＊東京医科大学の看護実習受け入れ。

＊機能訓練…ＤＡＭコンテンツを使用して充実度をアップ。

＊台東区の事業者連絡会、通所部会に（ZOOM）参加。

＊毎月のスタッフミーティング時にテーマを決めて学習会を実施した。

6．コスモスハウスおはな

1）職員状況

・職員数：常勤２名、非常勤９名（1名1月入職・1名3月31日退職）、ボランティア２名

・配　置：日勤1～2名、宿直１名、昼・（清掃・食事補助）各１名

2）入居者の現状

① 入居者数　12名（男性８名、女性４名）

② 入居者の変動

入所５名（男性５名入所）退所５名（女性１名　男性４名）

※ ５名を看取り、４名はコスモスのお墓へ納骨　１名は教会へ

③ 年齢構成

	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
2024年3月末	1名	1名	—	5名	3名	2名	12名
2023年3月末	1名	1名	—	6名	1名	3名	12名

④ 主な疾患

認知症、心疾患、肝疾患、糖尿病、視力障害、聴覚障害、脳梗塞後遺症等、うつ病、慢性腎不全、乳がん、COPD、下咽頭癌、ストマ管理

＊診療に関しては、基本的には訪問診療を受けているが、1名外来通院している。

＊精神科の訪問診療を２名が受けている

＊眼科、泌尿器科、歯科などの他科受診を複数受けている方もいる。

⑤ 介護、障害に関する状況

介護保険受給者：11名　身体障がい者手帳保持者：５名

＊要介護４以上の方が８名

＊医療、介護サービスを利用

＊通所サービスは９名が利用

＊精神の自立支援医療を２名が利用

＊訪問リハビリは１名が利用

※訪問介護利用者：12名、訪問看護利用者：　12名、通所介護利用者：　９名

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
2024年3月末	0名	1名	2名	4名	4名	1名
2023年3月末	0名	0名	3名	4名	4名	1名

⑥ 福祉事務所

台東区８名、文京区１名、小平市１名、荒川区１名と他区とも連携あり。

自費２名（1名3月退所）

3）2023年度のまとめ

①新型コロナウィルス感染症患者の発生について

＊2023年8月23日、利用者計13名、職員計５名が感染。

主治医、関係機関と連携を図り、感染拡大防止に努めた。

② コスモスアパートの入居者、近所のアパートの方への夕食の提供。

＊「おはな」で昼食、夕食あわせて３名が利用。服薬の介助も実施。
＊コスモスアパートゆいの入居者への安否確認を夕食の配食の時に実施。
＊月に１回の職員による手作りの特別メニューは大変好評。
＊季節に合わせ、季節感を味わえる和菓子を添えて提供。
＊食事形態を刻みや、ペースト対応が必要な方が数名おり、食事介助を実施。
＊外部からのおはなのお風呂使用継続。

③ 外壁補修、浴室脱衣所床、玄関ドアの修繕を実施。

④ 金銭管理の必要な方６名　（うち社協利用３名、後見人制度利用１名、おはな管理２名）

⑤ 日常生活支援居住施設となり３年目を迎える。
一般社団法人全国日常生活支援住居施設協議会の会員として年に１回、研修に参加し、個別支援計画書作成、運営、支援理念などを学んでいる。

⑥ 水道料金免除手続き。
被生活保護受給者は、共同住宅扱いの適用であれば水道料金が免除される制度があり、制度を利用して、12名が免除された。

７．支援付きアパート

コスモスの理念に基づき「住み慣れた地域で最期まで暮らせる場」として支援付きアパートを開設し、今年で14年目を迎える。

１）コスモスアパートの支援体制

①各入居者が医療（往診医・看護師）、介護サービスを受けながら生活。
②コスモス職員（看護師、事務職員）による見守り・支援・相談を実施。
③近隣の施設「コスモスハウスおはな」で希望者には食事を提供。・

２）コスモスアパート「にじ」・「ゆい」の状況

＊スモスアパート「にじ」　入居者８名（定員８名）（2024年３月31日現在）
・転居者　１名　2023年12月転居（おはなへ）
・退去者　１名　ご逝去
・入居者　３名　　５月１名　10月１名　　2024年１月１名
＊コスモスアパート「ゆい」　入居者４名（定員６名）（2024年３月31日現在）
・退去者　１名　2024年１月１名（おはなへ）
・入居者　１名　2024年２月１名
＊交流会
アパート入居者同士や職員との交流会として隅田川花火大会鑑賞会を開催した。
クリスマスには、クリスマス会の開催をした。
年末のおせち料理の配布は継続とした。

３）安全対策

各部屋の防災備品の確認。入居者リストの更新の実施。
避難経路を確認し安全の確保を実施した。
３月に「にじ」にて、日本堤消防署の協力のもと、火災を想定して避難訓練を実施した。

8．健康相談事業

1）敬老室健康相談

毎週木曜日・第4土曜日（医師同行）に城北労働福祉センター（以下センター）分室敬老室にて、14 時から健康相談を実施している。

2023 年度は 157 名の方が利用されている。相談件数は昨年度より 40 件増加している。しかし敬老室の利用者は年々減少傾向となっている。相談利用者は定期的に相談される方が主となっており、ほぼ固定化している。予防的に感冒薬・胃薬・湿布を希望される方が多く、1日分配布も継続しているが、ほとんどの方が医療機関への通院はできている。建物自体の老朽化も問題となっている。

1．敬老室健康相談実績

健康相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	14	14	15	14	19	10	14	17	8	11	9	12	157

2）娯楽室健康相談

第2水曜日・第4土曜日の 15 時 30 分～17 時 30 分まで、センター娯楽室にて健康相談を実施している。相談件数は 289 件であり前年度から 22 件減少している。娯楽室利用者は利用時検温、体調確認、感染予防を継続。飲食の場所を限定していることもあり、新型コロナウイルス感染症のクラスター報告はなかった。相談者は、定期的な利用者が主であり、血圧測定、感冒薬や胃腸薬の配布を継続した。適切な医療に繋がっていない方の相談や制度利用に関する相談も数件ありセンター相談室を紹介したり、区役所への相談パンフレットをセンターが作成し希望者に配布している。

娯楽室健康相談実績

健康相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談件数	23	23	16	20	17	22	19	28	28	25	19	27	267

3）よせば健康相談・簡易旅館巡回健康相談

① よせば健康相談

月～金曜日まで 9 時 30 分から 11 時 00 分まで、センター1階にてよせば健康相談を実施している。相談件数は、1621 件であり前年度より 524 件減少している。利用者の内訳は生活保護受給者 1244 名（-131 名）・路上生活者 254 名（-144 名）・その他 123 名（-249 名）となっている。年代別に見ても、減少傾向となっている。利用者の高齢化も同様である。連日血圧測定目的にて利用される方も多く、地域での健康相談として成果を得ている。また路上生活の方を医療や制度につなぐ窓口の目的もあり、健康状態や生活状況に応じて相談窓口へ繋ぎ緊急性の医療処置 や生活相談を実施している。また服薬への聞き取りを実施し療養指導の一端を担っている。結核を疑われる症状と類似する事もある為職員と話し合い、感染症状が疑われる路上生活者に関してはセンター対応とし、生活保護受給者はケースワーカー相談・かかりつけ医相談等対応を周知していく。

よせば健康相談実績

健康相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生保	118	105	107	113	135	119	116	115	86	74	80	76	1,244
路上	20	31	27	30	30	25	19	17	13	11	5	26	254
不明	11	5	5	10	12	9	12	9	3	16	15	16	123

年代別内訳

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
20～40 代	15	15	13	10	11	6	8	6	4	1	1	4	94
50～60 代	60	55	49	54	72	67	52	51	46	43	43	52	644
70 代以上	74	71	77	90	90	80	87	85	52	56	56	62	880

② 簡易旅館巡回健康相談

センターから依頼された簡易旅館を廻り、宿泊されている方への健康相談を週 2 回実施した。52 件の依頼を受け、昨年度より増加しているが、相談される方は殆ど受診されている。旅館も空室が増加しており、廃業や経営形態を変える旅館も多い。宿泊者の環境や生活状況の聞き取り調査も実施した。新型コロナウイルス感染での救急搬送事例はなかった。相談者の多くは生活保護受給者であり、宿泊者の多くは医療に繋がっており相談の必要性は無いと巡回 を断られるケースもある。 地域全体の高齢化に伴い日雇いの方への相談はほとんどないが、巡回相談を通し、管理人との情報交換、またコスモスの活動を理解していただく機会となっている。

4．簡易宿泊所巡回健康相談実績

	巡回回数	相談者数	生保受給者数	その他
相談件数	52	114	94	0

4）山谷地域越年対策医療援護業務

2015 年度より東京都から委託を受け、 12 月 29 日に、越年相談所医療室診療宿泊前健康チェックをセンター2 階にて医師 1 名と看護師 2 名で実施した。防護服着用、事前の検温、聞き取り調査実施。宿泊希望者は昨年度と変動ほぼなし、体調 不良の方もほぼなく相談者は 3 名であった。

9．板橋寮事業

1）目的

路上生活者対策事業の一環として、特別区内（23 区内）の道路・公園・河川敷等で路上生活を余儀なくされている方、またはその恐れがある方の一時的な保護・就労による自立など、路上生活からの早期社会復帰に向けた支援を行う、東京都と特別区の共同事業である。

2）コスモスの業務

① 巡回相談事業（週 1 回月曜日）

② 入居者の健康状態のアセスメント及び健康相談事業（月～金：各 2 時間）

3）2023 年度の報告

① 巡回相談事業

1. 入居者の健康状態

健康相談件数は 38.8 件/月であり、そのうち嘱託医の診察を経て医療機関に紹介された件数は 21 件/月であった。紹介先診療科としては、高血圧・糖尿病等の生活習慣病を中心に内科が 4.9 件/月、歯科が 5.7 件/月、整形外科 2.75 件/月、皮膚科 2.3 件/月が多く、前年度と傾向は同様である。路上生活という衣食住が不安定な状況下での医療アクセスの困難さから、慢性疾患の治療が中断され、重症高血圧や糖尿病が放置されていることが多い。口腔内の衛生状態が悪いことも特徴の一つであり、歯磨きをするといった生活習慣がなく、齲歯を長年放置した結果、年齢の割に歯牙欠損が多い傾向がみられる。

複雑な成育歴・社会背景を抱え、不眠や不安、うつ症状を訴え、心理的なフォローを必要とする入居者は顕在するが、入寮時のアセスメントのみでスクリーニングすることには困難さを感じている。適宜、心理相談担当の職員及び精神科嘱託医（月 1 回）と情報共有を図り、対応している。

2. 感染症対策

センター全体として、スタンダードプリコーションの徹底を実施し、アルコール消毒・マスクを常備し、相談者との間にビニールカーテンを設置するといった環境整備、関連症状の問診を徹底している。

寮内には静養室（個室）が 3 室しかなく、感染疑いの者が発生した場合の隔離環境が十分でなく、トイレや浴室が共用であるため、確実な予防策をとることが困難である。また陽性者が出た場合、濃厚接触者が職員、入居者と多数に及び、クラスター発生のリスクも高いことが懸念される。

昨年度は、19 名の入所者がコロナ PCR 検査/抗原検査を受け、13 名の陽性者が確認された。発熱等の有症状者や陽性判明者は、静養室へ移動して頂き、職員に健康観察や食事の部屋出しを依頼した。

インフルエンザ予防に関しては、例年通り、健診先の病院および寮内にて予防接種が実施され、発症者は 1 名のみであった。結核対策としては、疑いのある利用者については喀痰採取、個室管理とし、医療機関と連携することとなっている。今年度は結核患者の発生はなかった。

１０．地域への健康相談ボランテイア活動・その他

1）イベント参加

①ふるさと主催 越年炊き出しに参加し 12/31・1/3 健康相談や市販薬提供を通常通り実施

②ひろば祭はコロナ感染拡大予防にて 2023 年度も中止

③りんりんふぇす山谷 in 玉姫公園　救護室ボランティアとして[redacted]参加

2）地域ケア連携をすすめる会

2023 年度は第 15 期を迎えた。

山谷地域における居住支援や生活支援・社会サービスの事業者が連携しネットワークの形成を目的としている。

コスモスから事務局に 2 名参加し活動を継続している。

＊2023 年度活動報告

・定期的に事務局会議・運営委員会を zoom 開催し、意見交換や情報共有を行った。

・定期的に運営委員会を開催

・運営委員会議事内容

① 地域ケア連携構築及び推進、普及活動

2023 年 4 月　「山谷のこれからを語り合う-奥田知志様を囲んで-」

2023 年 6 月　「看取りを支える人をどう支えるか」

2023 年 10 月　「山谷地域の地域医療を振り返る」

② 地域ケア連携の啓発、情報発信活動

2024 年 2 月 10 日「山谷地域の介護・看護・生活支援のお仕事説明会」

＊災害時等における山谷地域のケア継続事業・文化交流事業

・シェルター（清川貸家事業）5 名利用があった

・2023 年 8 月 19 日　合同慰霊祭　玉姫公園

・運営にかかる財源に関しては世話人団体による協力金収入となっているが、短期的には助成金事業を調査、中長期的には持続可能な財源調達を検討中

１１．いこいの間コスモス

1）活動概要

路上生活者を中心として、第 1、第 3 土曜日の月 2 回 12 時～15 時、デイサービスの場所を開放し、入浴・喫茶・娯楽・衣類提供・健康相談を行うボランティアとして活動。

2）2023 年度活動報告

① 過去 3 年間の参加者数

総　合	全　体	男　性	女　性	新規登録	入　浴	散　髪
2023 年度	265	262	3	4	109	132
2022 年度	277	260	17	6	124	125
2021 年度	196	173	23	0	87	66

② 3 月末現在の登録者数は、697 人

③ 入浴、散髪、お菓子・衣類の提供

④ 健康相談では希望者に、市販薬の配布

⑤ 利用者の 70%は路上生活者

3）2023年度活動報告

2023年11月より固定スタッフに[redacted]が加わり、ボランティアは入れず固定スタッフ2～3名で対応した。

4）必要物品について

・定期的に衣類の寄付はあるが、足りないものについては、その都度購入している。

・購入品：　お菓子、飲料、下着、靴下、規格外の衣類など

5）利用状況について

・娯楽：以前やっていたカラオケ・映画鑑賞は実施せず、テレビ鑑賞のみ。

・喫茶：コーヒー・お茶・スポーツドリンクの提供行い、お菓子は持ち帰り用を準備して渡した。

・入浴：夏期はシャワー、秋冬期は湯舟を提供。

・散髪：希望者に実施。

・衣類や薬：希望者に配布。

書式第１２号（法第２８条関係）

Ⅱ　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【 269,132 】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
居宅介護支援事業、第1号通所事業、介護保険法に基づく訪問看護事業、介護予防訪問看護事業、通所介護事業、	介護保険法に基づく訪問看護事業、介護予防訪問看護事業	【山谷地区】 山谷地域を含む高齢者・障がい者・生活困窮者の医療・看護を要する人に対しての訪問看護を実施した	原則、祝日・日曜・年末年始は休みであるが必要時訪問する。 また緊急時24時間体制でサービスを実施する	各指定利用者の居宅又は施設 台東区及び荒川区の一部	訪問看護師 28人	各指定利用者の居宅利用者	308人	152,284
		【横浜市寿地区】 精神疾患を中心に寿地域を含む高齢者・障がい者・生活困窮者の医療・看護を要する人に対しての訪問看護を実施した		各指定利用者の居宅又は施設 横浜市中区の一部	訪問看護師 7人	各指定利用者の居宅利用者	21人	27,842
	介護保険法に基づく通所介護事業、第1号通所事業	介護保険利用者へのデイサービスを提供した ・食事、入浴、レクレーション、リハビリテーション、送迎等	土日年末年始は休み	デイサービス	13人	各指定利用者の居宅利用者	65人	35,328
	介護保険法に基づく居宅介護支援事業	山谷地域を含む要介護認定者のケア計画作成　訪問看護と連携して利用者の生活支援を行った また、医療依存度の高い利用者を積極的に受け入れた	原則、祝日・日曜・年末年始は休み	指定利用者の居宅又は施設	4人	各指定利用者の居宅利用者	97人	9,776
健康保険法に基づく訪問看護事業		【山谷地区】 山谷地域を含む高齢者・障がい者・生活困窮者の医療・看護を要する人に対しての訪問看護を実施した	原則、祝日・日曜・年末年始は休みであるが必要時訪問する。 また緊急時24時間体制でサービスを実施する	各指定利用者の居宅又は施設 台東区及び荒川区の一部	訪問看護師 28人	各指定利用者の居宅利用者	173人	介護保険法に基づく訪問看護事業に含む
		【横浜市寿地区】 精神疾患を中心に寿地域を含む高齢者・障がい者・生活困窮者の医療・看護を要する人に対しての訪問看護を実施した		各指定利用者の居宅又は施設 横浜市中区の一部	訪問看護師 7人	各指定利用者の居宅利用者	47人	
高齢者・障害者・生活困窮者などの健康に関する調査・研究事業		【健康相談・結核関係】 城北労働福祉センター委託事業 ・健康相談・簡易旅館巡回健康相談を行った ・山谷地域越年対策医療援護業務	週5日　244回 月2回　24回 週2日　52回 12/29	城北よせば 娯楽室 簡易宿泊所 城北健康相談室	26人 33人 20人 3人	地域住民及び住所不定者 宿泊者 宿泊希望者	1,621人 267人 114人 3人	9,094
		【健康相談・結核関係】 ふるさとの会　健康相談 越年炊き出し健康相談（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ） 東京援護会，東京都の委託事業 ・健康相談、アウトリーチ等 ・生活習慣病等の教育相談 ・結核発病者の発見教育相談	月3日　51回 12/31、1/3 週5日 週1日	敬老室 隅田川高架下 板橋寮 アウトリーチ （豊島区、板橋区、練馬区、中野区、杉並区内）	10人 4人 6人 3人	地域住民及び住所不定者 板橋寮入寮者 住所不定者	157人 約150人 延394人 延132人	
健康教育、啓発を図る事業		【避難行動計画】 台東区委託事業 ・台東区内要支援者等の避難行動計画を作成する	7/1～3/31	台東区内 要支援者宅	3人	台東区内 要支援者	84人	270

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費（千円）
健康教育、啓発を図る事業	【実習】 訪問看護において医学生・看護学生等の地域看護学実習を行った	5/8～2/15 196日	コスモス事業所 利用者宅 居住施設	26人	看護学生	91人	2,000
	デイサービスにおいて在宅看護論実習を行った	1/16～1/25 8日	デイサービス	9人	看護学生	4人	
	【学習会、研修会】 「エンゼルケアセミナー」	8/1	デイサービス	3人	職員	20人	850
	「かとう医院皮膚科[redacted]の皮膚科学」	2/2		3人	職員	20人	
	「緩和ケアの集いーより良いチームケアとは何かを考える」	2/29		3人	職員、外部	約50人	
	【広報等】 機関紙の発送を実施した	6/26, 11/9, 2/26	コスモス本部	3人	職員 正会員 利用者 事業所他	40人 75人 約150人 約70人	
	ホームページリニューアル・保守	随時更新	コスモス本部	3人	ホームページ閲覧者		
保健衛生に関する地域再生の提案事業	【まちづくり】 (ボランティア・社会貢献事業) デイサービスを開放し、入浴提供，喫茶サービスを実施した	いこいの間 第1, 3土曜 24回	デイサービス	4人	地域住民及び住所不定者	265人	769
	クリスマス会	12/22	デイサービス	3人	利用者 職員	20人 40人	
	地域ケア連携をすすめる会 ・事務局会議、運営委員会 ・推進、普及、啓発、情報発信活動		近隣会員事業所	2人	山谷地域住民		
	りんりんふえす山谷in玉姫公園 ・パネリスト、救護室ボランティア	3/3	玉姫公園	10人	地域住民各団体他		
	【新型コロナ感染症対策関係】 東京都訪問看護ステーション協会，台東区の委託事業 ・新型コロナ感染症患者在宅療養者への訪問看護・健康観察事業 ・訪問看護事業所案内業務	4/1～5/7 週6日 原則、日曜・祝日・年末年始は休み	台東区内 療養者宅	3人 1人	台東区療養者 台東区当番医	1人	10
	【能登災害支援】 令和6年能登地震による災害支援を行う。	1/15-1/17 1/26-1/30 3/16-3/19	志賀町福祉避難所 いしかわ総合スポーツセンター 輪島もんじゅ楓の家	1人 1人 1人	避難者	30人 220人 18人	127
地域住民及び生活保護者等の宿泊所事業	【宿泊所事業】 独居での生活が困難な人達への宿泊施設の提供と生活維持への援助	通年	コスモスハウス『おはな』	11人	宿泊者	17人	30,782
			支援付きｱﾊﾟｰﾄ	3人	入居者	16人	
	「日常生活支援住居施設」を実施 一部の看取った利用者をコスモスの供養墓へ埋葬し、供養を行った	9/21、3/18	浄土宗光照院	1人	埋葬者	6人	

（2）その他の事業　　（事業費の総費用【　　】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費（千円）
なし					

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション　コスモス

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ 経常収益			
1 会費・入会金収入		76,000	
2 訪問看護収入		283,404,212	
3 居宅介護支援収入		10,984,388	
4 通所介護収入		42,376,605	
5 利用者等サービス料収入		1,944,000	
6 健康相談事業収入		14,568,103	
7 助成金収入		652,700	
8 宿泊所事業収入		36,465,310	
9 寄附金収入		152,000	
10 その他収入		3,809,024	
経常収益合計			394,432,342
Ⅱ 経常費用			
1 事業費			
人件費			
給与手当	195,874,578		
法定福利費	29,587,959		
福利厚生費	7,077,953	232,540,490	
直接費			
給食材料費	5,806,120		
消耗品費	2,702,822		
旅費交通費	7,462,597		
車両費	1,047,056		
水道光熱費	3,151,547		
委託車両費	2,767,000		
減価償却費	12,094,555		
活動費	1,560,289	36,591,986	
2 管理費			
人件費			
給与手当	42,450,986		
法定福利費	5,760,361		
福利厚生費	2,722,095	50,933,442	
一般管理費			
旅費交通費	1,225,471		
研修諸会費	967,193		
通信運搬費	3,507,657		
事務消耗品費	3,423,398		
接待会議費	1,134,144		
修繕費	3,635,250		
水道光熱費	578,634		
賃借料	6,833,500		
保険料	631,518		
システム利用料	1,034,238		
租税公課	2,232,200		
雑費	5,751,371	30,954,574	
支払利息		162,246	
経常費用合計			351,182,738
当期経常増減額			43,249,604

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション　コスモス

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			43,249,604
法人税、住民税及び事業税			11,606,854
当期正味財産増加額			31,642,750
前期繰越正味財産額			475,782,639
次期繰越正味財産額			507,425,389
元入金			1,561,060
正味財産合計額			508,986,449

貸借対照表

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション　コスモス

令和6年3月31日　現在

（単位：円）

科目	金額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現預金	233,972,039		
売掛金	58,193,765		
貯蔵品	429,310		
仮払金	55,583		
前払金	498,140		
未収入金	2,520,565		
流動資産合計		295,669,402	
2 固定資産			
建物	111,143,073		
建物附属設備	41,248,020		
構築物	1,201,272		
車両運搬具	1		
工具器具備品	474,384		
借地権	94,631,522		
電話加入権	116,792		
ソフトウェア	693,000		
無形固定資産(リース資産)	475,860		
出資金	300,000		
差入保証金	50,000		
敷金	368,000		
保険積立金	8,033,414		
固定資産合計		258,735,338	
資産合計			554,404,740
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払費用	16,014,259		
未払法人税等	12,122,100		
未払消費税等	651,900		
預り金	3,396,792		
預り保証金	488,600		
前受金	200,800		
流動負債合計		32,874,451	
2 固定負債			
長期借入金	12,000,000		
リース債務	543,840		
固定負債合計		12,543,840	
負債合計			45,418,291
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		475,782,639	
元入金		1,561,060	
当期正味財産増加額(減少額)		31,642,750	
正味財産合計額			508,986,449
負債及び正味財産合計			554,404,740

計算書類の注記

（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

1．　重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日　2017年12月12日最終改正　NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

法人税法に規定する定率法によっています。ただし、建物並びに平成30年4月1日以後に取得した附属設備及び構築物は定額法によっています。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっています。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、少額な契約を除きリース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法によっています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2．　固定資産の増減内訳

（単位：千円）

科　目	期首取得価額	取　得	減　少	期末取得価額	期首減価償却累計額	減少資産償却累計額	当期償却額	期末減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産	222,499	303		222,801	57,654		11,081	68,735	154,067
建物	151,468			151,468	33,799		6,526	40,325	111,143
建物附属設備	67,645			67,645	22,164		4,233	26,397	41,248
構築物	1,464			1,464	178		85	263	1,201
車両運搬具	1,477			1,477	1,476			1,476	0
器具及び備品	446	303		749	37		237	274	474
無形固定資産	99,817			99,817	2,886		1,014	3,900	95,917
借地権	94,632			94,632					94,632
電話加入権	117			117					117
ソフトウエア	990			990	99		198	297	693
ソフトウエア（リース資産）	4,079			4,079	2,787		816	3,603	476
投資その他の資産	8,722	30		8,751					8,751
出資金	300			300					300
敷金保証金	390	28		418					418
保険積立金	8,032	2		8,033					8,033

3．　リース債務の増減内訳

（単位：千円）

科　目	期首残高	当期増加	当期減少	期末残高
リース債務	1,360		816	544
リース債務（短期）				
リース債務（長期）	1,360		816	544

4．　借入金の増減内訳

（単位：千円）

科　目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
借入金	18,000		6,000	12,000
長期借入金	18,000		6,000	12,000
役員借入金				

財 産 目 録

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション　コスモス

令和6年3月31日　現在

（単位:円）

科目		金額		
Ⅰ 資産の部				
流動資産				
現預金				
現金	現金手許有高	440,422		
小口現金	現金手許有高	6,025		
普通預金	みずほ銀行	13,305,901		
普通預金	みずほ銀行	108,937,563		
普通預金	みずほ銀行	3,719,544		
普通預金	東京厚生信用組合	1,562,192		
普通預金	東京厚生信用組合	1,638,169		
普通預金	朝日信用金庫	5,841,791		
普通預金	朝日信用金庫	4,327,493		
普通預金	東京東信用金庫	45,345,942		
普通預金	東京東信用金庫	1,072,508		
通帳貯金	郵便局	960,200		
郵便振替	郵便局	463,357		
定期預金	東京厚生信用組合	25,569,483		
定期預金	朝日信用金庫	7,201,449		
定期預金	東京東信用金庫	10,000,000		
定期積金	朝日信用金庫	1,300,000		
定期積金	東京厚生信用組合	2,280,000	233,972,039	
売掛金				
東京都国保連合会	(介)本部	22,156,612		
東京都国保連合会	(介)デイ	6,609,374		
東京都国保連合会	(介)居宅介護	2,159,621		
東京都国保連合会	(医)本部	6,963,188		
東京都社保診療基金	(医)本部	10,297,441		
神奈川国保連合会	(介)	1,861,802		
神奈川国保連合会	(医)	160,510		
神奈川社保診療基金	(医)	4,939,077		
城北労働福祉センター		1,644,500		
自己負担		1,401,640	58,193,765	
貯蔵品				
給食材料		6,600		
DVDほか		422,710	429,310	
仮払金				
立替金		25,583		
仮払		30,000	55,583	
前払金				
長期損害保険料	未経過相当AIG	432,620		
長期損害保険料	未経過相当おはな	65,520	498,140	
未収入金				
日住委託事務費	東京都国民健康保険連合会	1,471,320		
支援計画委託料	台東区	525,995		
介護・障害福祉支援金	台東区	225,000		
利用者サービス	ディサービス	172,000		
その他	その他	126,250	2,520,565	
	流動資産合計			295,669,402

財 産 目 録

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション　コスモス

令和6年3月31日　現在

（単位:円）

科目		金額		
固定資産				
建物	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		111,143,073	
建物附属設備	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		41,248,020	
構築物	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		1,201,272	
車両運搬具	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		1	
工具器具備品	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		474,384	
借地権	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		94,631,522	
電話加入権			116,792	
ソフトウエア	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		693,000	
無形固定資産(リース資産)	別紙「固定資産台帳兼減価償却明細書」		475,860	
出資金	東京厚生信用組合　出資金400口、朝日信金出資金		300,000	
差入保証金	セコム契約保証金		50,000	
敷金	建物・駐車場敷金、寿事務所敷金		368,000	
保険積立金	富国生命保険		8,033,414	
	固定資産合計			258,735,338
	資産合計			554,404,740
Ⅱ 負債の部				
流動負債				
未払費用				
従業員等給与	3月16～31日日割分	7,834,577		
法定福利費	社会保険料事業主負担	5,581,478		
車両費	デイサービス　委託	271,537		
給食材料費	ナチュラルファクトリージョーほか	423,506		
水道光熱費	電気、ガス、水道料	564,917		
通信費	NTTほか	186,053		
消耗品費	消耗品ほか	442,349		
その他	その他費用	709,842	16,014,259	
未払法人税等	法人税・法人都民税見積計上額		12,122,100	
未払消費税等	消費税等計上額		651,900	
預り金	社会保険料等預り金		3,396,792	
預り保証金	そら・こかげ預り敷金		488,600	
前受金	おはな4月分家賃		200,800	
	流動負債合計			32,874,451
固定負債				
長期借入金				
東京厚生信用組合		12,000,000	12,000,000	
リース債務				
リコーリース		543,840	543,840	
	固定負債合計			12,543,840
	負債合計			45,418,291
Ⅲ 正味財産の部				
正味財産合計額				508,986,449
負債及び正味財産合計				554,404,740

書式第１８号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

令和　５年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人　訪問看護ステーションコスモス

１　確認事項（法第２０条及び第２１条を確認の上、チェックを入れてください。）

☑以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第２０条関係）
☑各役員について、親族の規定に違反していません。（法第２１条関係）

２　役員一覧

	役　名 どちらかに○	（フリガナ） 氏　　名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
1	(理事)・監事	ﾔﾏｼﾀ　ﾏﾐｺ 山下　眞実子		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
2	(理事)・監事	ｵｵﾜｷ　ｶﾂﾔ 大脇　甲哉		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
3	(理事)・監事	ﾆｼﾑﾗ　ｶｽﾞﾐ 西村　料美		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
4	(理事)・監事	ﾑｶｻ　ｱｷｺ 武笠　亜企子		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
5	(理事)・監事	ｵｵｼﾏ　ﾔｽｴ 大島　泰江		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
6	(理事)・監事	ｽﾅｶﾞ　ﾄﾐｵ 須永　十三男		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
7	(理事)・監事	ｷｶﾞﾜ　ﾐｶ 城川　美佳		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
8	(理事)・監事	ｳｻﾞﾜ　ｷｴｺ 鵜澤　喜恵子		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
9	(理事)　監事	ﾋﾗﾉ　ｻﾄｺ 平野　智子		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
10	理事　(監事)	ﾐｳﾗ　ｹｲｲﾁ 三浦　啓一		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日

書式第１８号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

令和　５年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人　訪問看護ステーションコスモス

	役　名 どちらかに○	（フリガナ） 氏　　名	[redacted]	前事業年度内の就任期間	報酬を受けた期間 （該当者のみに記入）
11	理事・(監事)	ハラ　ハルコ 原　春子		令和　５年　４月　１日 ～ 令和　６年　３月３１日	年　月　日 ～ 年　月　日
12	理事・監事		以下余白	年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
13	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
14	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
15	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
16	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
17	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
18	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
19	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日
20	理事・監事			年　月　日 ～ 年　月　日	年　月　日 ～ 年　月　日

書式第４号（法第１０条・第２８条関係）

~~設立~~・事業報告用

社員名簿（社員のうち１０人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人　訪問看護ステーション コスモス

	氏　　名	[redacted]
1	山下　眞実子	
2	西村　料美	
3	武笠　亜企子	
4	大島　泰江	
5	大脇　甲哉	
6	三浦　啓一	
7	須永 十三男	
8	城川　美佳	
9	鵜澤 喜恵子	
10	平野　智子	
11	原　春子	
12	羽原　克也	